パートの仲間は手をつなごう！
全労連　パ・臨のなかま NO.8
2012.11.16 発行
全労連TEL03-5842-5611
東京都文京区湯島 2-4-4
E メール　part@zenroren.gr.jp

大阪労連・非正規労働者部会

第 17 回パート・非常勤・ヘルパー・派遣労働者のつどい

非正規労働者部会「第17 回パート・非常勤・ヘルパー・派遣労働者のつどい」が、11月4日（日）、大阪市内で開催され、385 名が参加しました。

「友よ闘ってこそ明日がある合唱団」のオープニングで始まり、実行委員長挨拶では、大阪労連・川辺議長が「電機産業13 万人リストラ計画からも見るように、経営のつけが労働者にまわされ、正規も非正規も使い捨てされようとしている。今こそ組合のありようが問われている。労働者の尊厳が守られる闘いをすすめていきたい。」と訴えました。

5団体からのリレートーク

大教組　先日、ある臨時教員から「クラスが荒れて疲労も溜まっていて、通勤の途中で気分が悪くなったが、休めなかった。」と話を聞きました。それは、正規であれば病休があるが、臨時は病休を取れば、仕事がなくなる心配があるからです。大阪は、他府県に比べ倍の臨時教職員が4000人と、臨時の濫用が大阪では広がっている。私たちの力は微力ですが、保護者の力は絶大です。保護者とも協力しながら、学校現場を改善していくために頑張っていきます。

生協労連　9月30日から大阪府最低賃金が800円になり、よどがわ生協、パルコープではすべてのパートの底上げに繋がりました。今や最賃の引き上げは、私たちの時間給の底上げに大きく影響するようになっています。生協労連では、非正規労働者の春闘要求の柱に最低賃金1000円以上を位置づけ、単組では生協の理事会に向けて、時間給1000円要求の正当性を訴え交渉に臨んできました。ひきつづき、地域の仲間とともに最低賃金引き上げの運動を広め、強めていきます。格差是正と均等待遇実現に向けて正規・非正規労働者が一緒に力を合わせていきましょう。

自治労連　吹田市の総合福祉会館で25年間非常勤で勤務してきたが、9月で2名雇止めされた。以前は民間の福祉施設に働いていたが、在宅で障害者の方がなかなかサービスを受けれない状況があった。公的立場でサービスにつなげていく仕事に誇りを持って働いてきて、毎年「来年も働きます」と確認しながらやってきた。しかし、吹田市は、民間委託にするため雇止めすると通告してきた。現在、裁判に向けてすすめている。自治体非正規の身分を確立して、市民サービス切り捨て許さないたたかいを進め、安心して働きつづけられるようにしていきたい。

福保労　現場は、頭数さえ揃えていればいいと、半分以上が非正規になっている。昨年、福祉保育労では非正規部会を結成し、この間、交流会や学習会を行ってすすめてきた。さらにつながりを強め、学習を強めていきたい。福祉職場は連携していく職場なのに孤立化している。つながりを求めてしんどく

なってやめていく。みんなで語り合ってなんとかしていきたい。今後も、他の団体とのつながりも強めていきたい。

青年部　「給料を上げてほしい」「長時間労働を減らしたい」「有給、産休・育休をとりたい」「非正規でも暮らせる賃金を！」青年の素朴な要求が実現しない。私たち青年が望むのは、成果主義で給料が決まり、仲間と競争ばかりしなければならない職場ではなく、長時間労働でココロも体も疲れる職場ではなく、職場の仲間といい仕事をするために連携し、信頼し合って、一緒に成長していける、人間らしい生活・仕事のできる社会です。

中村和雄弁護士による記念講演

講演は、『非正規をなくす方法』の著者で弁護士の中村和雄さんを講師に、非正規労働者の実態と「改正」有期労働契約法について学習しました。

「日本の労働者数は5千万人と変化はないが、非正規だけが増えている。正規との差別がいっぱいあり、若年の時の格差が働き続けることで格差が拡大する。」「正規は、給料が上がっていくが、非正規はそのまま、こんな国は日本だけ。」「ヨーロッパでは、有期雇用の労働者は一般より賃金が高くなっているが、日本では期限がありハンディのある人がさらに低い賃金とされている。」と外国と比べ、日本の非正規労働者の置かれている労働環境が『世界の非常識』と言われるほどひどいものであることが話されました。また、「経団連は、同一価値労働同一賃金と言いながら、同じ仕事をしていても転勤が出来なければ低い賃金で構わないと言い出している。」「差別のない働き方を追求していくためのも、正規と非正規が違っていていいのか、正規と非正規が一緒に共同して闘っていくことが大切。」と財界の更なる攻撃を跳ね返していくためにも正規・非正規が一体となった闘いの必要性が語られました。

政治の転換で雇用政策の転換を

最後に、集会アピールを確認し、閉会挨拶では続非正規労働者部会部会長が「非正規についたのは、自己責任とされているが、この国の雇用政策や企業の働かせ方が問題だということを、政治課題に押し上げていくことが私たちの重要な課題となっている。まじめに働けば、まともな生活できるあたり前の社会をみんなでつくっていきましょう。」と呼び掛け、集会は終わりました。

【「大阪･非正規労働者部会ＮＥＷＳ」第2号より】